

●朝鮮半島南部の巫女のクツ、沖縄の豊年祭、台湾の王爺祭祀、中国江南の媽祖信仰など、独自の光彩を放つ芸能の諸相。その共通の原風景を求める、著者渾身の集大成。

# 東シナ海祭祀芸能史論序説

慶應義塾大学 野村伸一 編

## 序章

### 第一章 蜡祭の系譜と芸能

- 一 「農耕感謝祭としての系譜」について
- 二 「巫現の祭祀芸能の系譜」について
- 三 「争闘、対立の芸能の系譜」について
- 四 「蜡、漢代の臘、民間の社祭などの系譜」について

### 第二章 鬼やらい（儺儀）の系譜と芸能

- 一 「蜡に由来する儺の探究」について
- 二 「民間の儺の形成に仏教の影響を考慮すること」について
- 三 「南方の儺」の探究」について

### 第三章 巫の儀礼の系譜と芸能

- 一 巫歌としての九歌
- 二 九歌と東シナ海周辺の巫俗

### 第四章 女神崇拜の系譜と芸能

- 一 「観音以前醜始祖女神たちと芸能」について
- 二 「西王母およびその周辺の女神たちと芸能」について
- 三 「女人観音と芸能」について
- 四 「観音以後の女神たちと芸能」について

### 第五章 花、蛇と祭祀芸能

- 一 花の祭祀と芸能
- 二 蛇の祭祀と芸能
- 三 「二蛇の祭祀と芸能」からの展望

### 第六章 仏教、道教と祭祀芸能

- 一 寺院の戯場と優人
- 二 寺院と鎮魂のかかわり
- 三 南戯のなかの女性と救済の類型
- 四 仏教と傀儡戯
- 五 第六章のまとめ 循環する東シナ海地域の祭祀芸能

あとがき・参考文献・索引

ここで何よりもいたいことは、東シナ海周辺の祭祀と芸能は本来は互いに近く、決してわれわれ日本人に縁遠いものではないということである。そして、本書を通して東シナ海周辺の祭祀の光景が今までとは別様にみえてくることがあれば、さいわいである。

一方では厳然とした現実がある。沖縄の祭祀芸能研究者は中国沿海部や朝鮮半島南部の祭祀や芸能をみて歩く機会がない。そして、また日本において中国の祭祀や演劇を研究する者は朝鮮半島や日本のことをあまり論じない。こうしたことは日本に限らず、中国、韓国の研究者にもいえる。国家の壁がそれほど強固だからなのか否かはわからない。

他方で、若い人たちにおいても相応の理由がある。何しろ、表面的にはずいぶんと印象が異なる。それゆえ、意気込んで現地へ赴き、見学をしたところで、祭祀や芸能の多くのことは違いすぎる。それらは彼我、結びつけようがないようにみえてしまう。

こうした現状がつづく限り、東シナ海は分断されたままである。それでいて、一方では経済や政治の要請もあって、東アジアを冠した書物が氾濫している。その光景は、中国、韓国でもみられるが、とにかく、わたしには不思議である。神の住む森や巫の行為、年の切り替え時の祭祀、寺廟の前の芝居、そうしたことがらに多くの人は生きる意味を委ねてきた。その人びとの顔がなくなると「東アジア共同体」がありうるのだろうか。

本書は年来、抱いている全体構想のうち、東シナ海地域に関する部分の骨子、いわば提綱である。そこで名付けて序説とした。どの章においても、まず歴史的な基軸の提示をした。次に祭祀芸能の現在の姿を図版により提示した。

## 体裁

・A5・並製カバー  
・三五四頁

## 税込み定価

・三一五〇円  
(本体三〇〇〇円)

注文書	
流通センター取扱品	
発売	風響社 TEL: 03-3828-9249
税込み	三一五〇円
部	

野村伸一 編

東シナ海祭祀芸能史論序説

ISBN978-4-89489-139-5 C1039 ¥3000E

〔お客様控え〕

ご氏名  
ご住所  
お電話

月 日

発行所 風響社  
114-0014 東京都北区田端四一-149  
電話〇三(三八二八)九二四九  
http://www.fukyo.co.jp